

## 第2回 SSTECH 技術講習会受講報告

実習工場班 中川 秀則  
佐々木 俊亮

### 1. はじめに

平成 23 年 12 月 26 日に静岡県立科学技術高等学校で行われた第 2 回 SSTECH 技術講習会を受講しましたので報告いたします

### 2. 講習内容

講演 「半日でわかる幾何公差」—幾何公差から製図教育をイノベーション—

講師 静岡文化芸術大学大学院デザイン研究科

教授 工学博士 望月達也 氏

- (1) 幾何公差の基礎とルール
- (2) 幾何公差の図面（作図と読解）
- (3) 幾何公差の理解力を確認するには

### 3. 所感

製図の方法は細かな決まりなど、早いペースで改定が行われる。当然自分が学生のころ習得したころから変化している。これは JIS 規格が年々 ISO の規格に準拠していることや、CAD 技術の発達、測定方法の発展などから起こることである。

教育機関である我々は最新の決まりごとを指導しなければならないが、現場ではどうなっているのかなど、指導方法において悩む面も多くあり、専門の講習会を受ける機会はとても良い経験となった。

図面のことなので 2 ページ目に図と共に具体的な講習の内容を提示する。

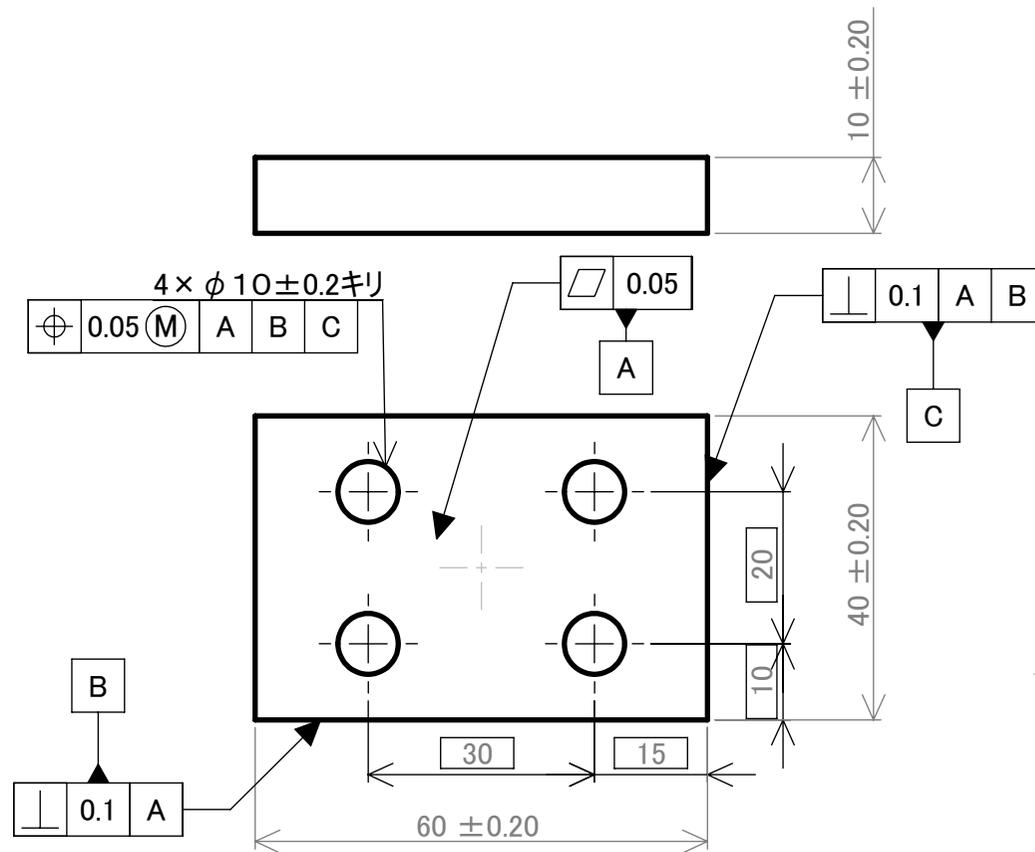
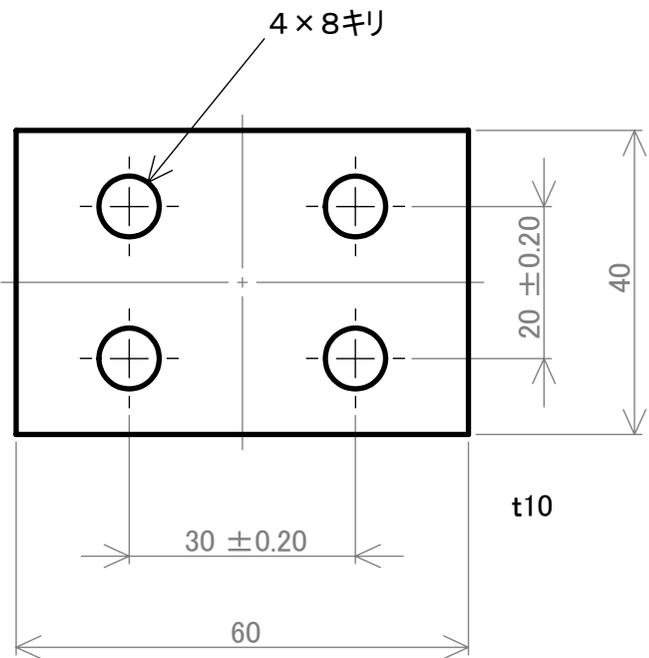
講習の内容を本校においてすべて行うのは現在の体制では困難であると共に、製図教育を大改革する必要も早急には感じないが、高専の教育を援助する者として、世の動きに備えておく上でも、知識として抑えておく必要性を感じた内容だった。

(中川)

現在実習教育の中で幾何公差に関する測定の指導をしているため、今回の技術講習会を受講することにした。

理工系教育機関の教員・職員を対象としているため講習の内容は幾何公差について基礎的な知識があることを前提に、多くの学校で行われている指導と実際に企業で使われている図面との幾何公差の考え方の違いについての話が主であった。

来年度からの新カリキュラムへの移行により設計製図の授業時間を縮小しなければならない中でより実践的な図面知識をつけさせるため、実習授業の中で体感的に理解させられるような実習内容・授業の進行方法などを検討したいと思う。 (佐々木)



	No.	NAME	TITLE:	
DRAWN				
DATE				
MATERIAL:			DWG NO.	Part 1
WEIGHT:			SCALE:1:1	SHEET 1 OF 1